

中山間地域の耕作放棄地を救え 杜仲の森で地域も人も元気モリモリ

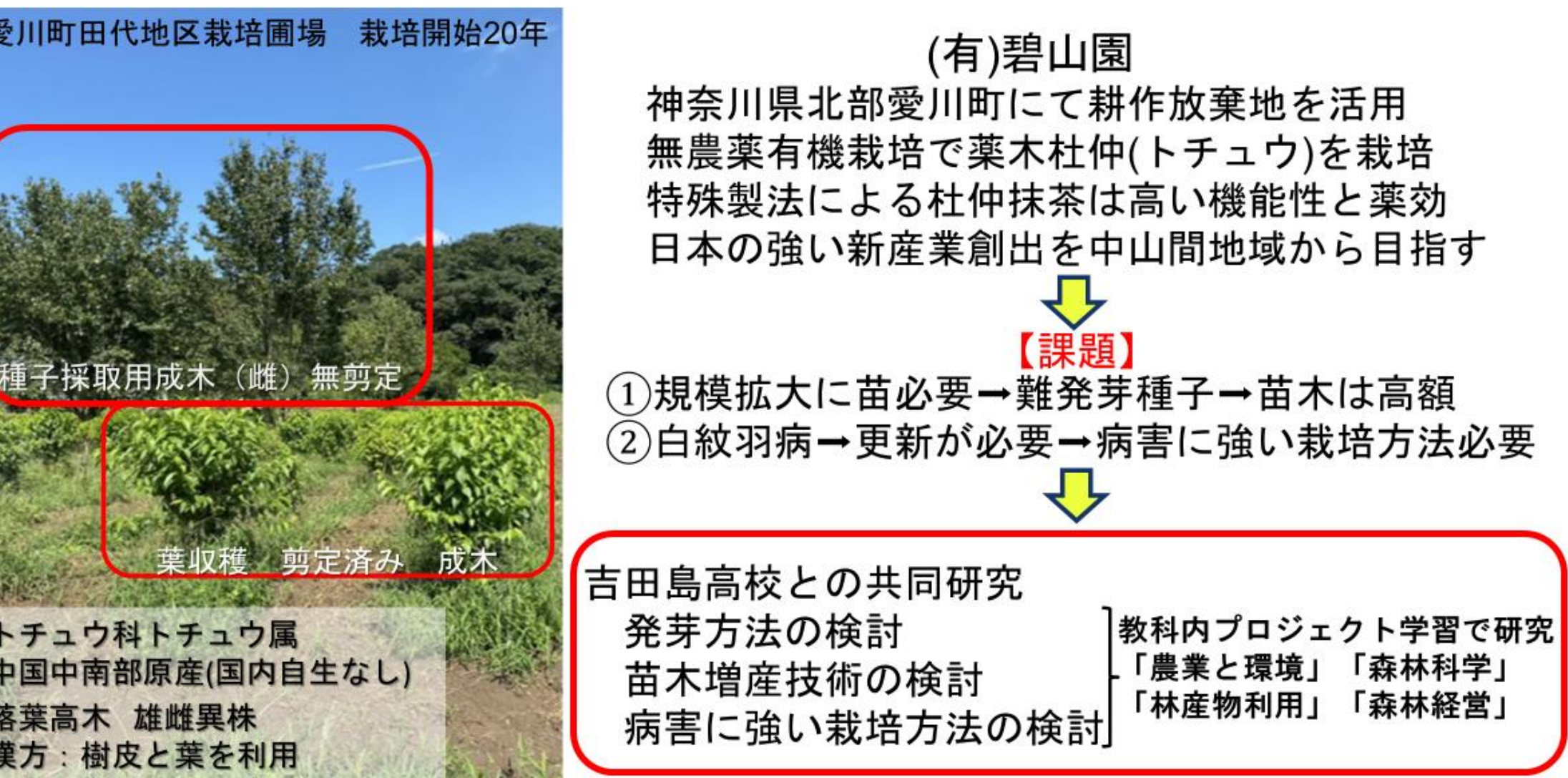
神奈川県立吉田島高等学校 環境緑地科 1 年次 教科「農業と環境」 21 名

1 みどり戦略との関連性（背景）

生産者の減少・高齢化が著しい中山間地域の振興に、狭小圃場や傾斜地の特性を活かした粗放的で大面積管理の可能な特用林産物の生産と高付加価値な商品開発で挑戦する。



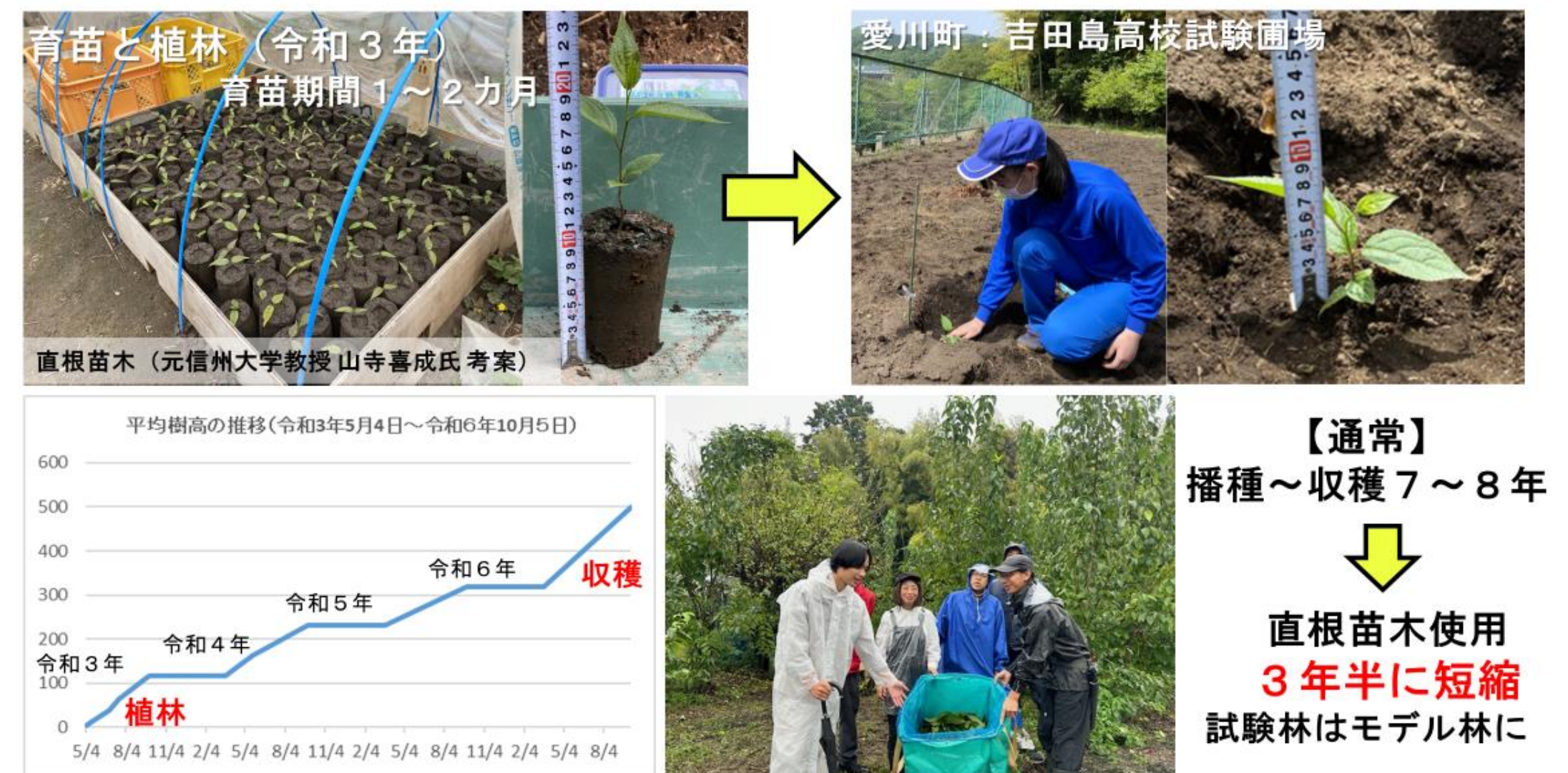
2 (有) 碧山園との共同研究のきっかけ



3 研究経過一令和 2 年



研究経過一令和 3 ～ 6 年



4 目的

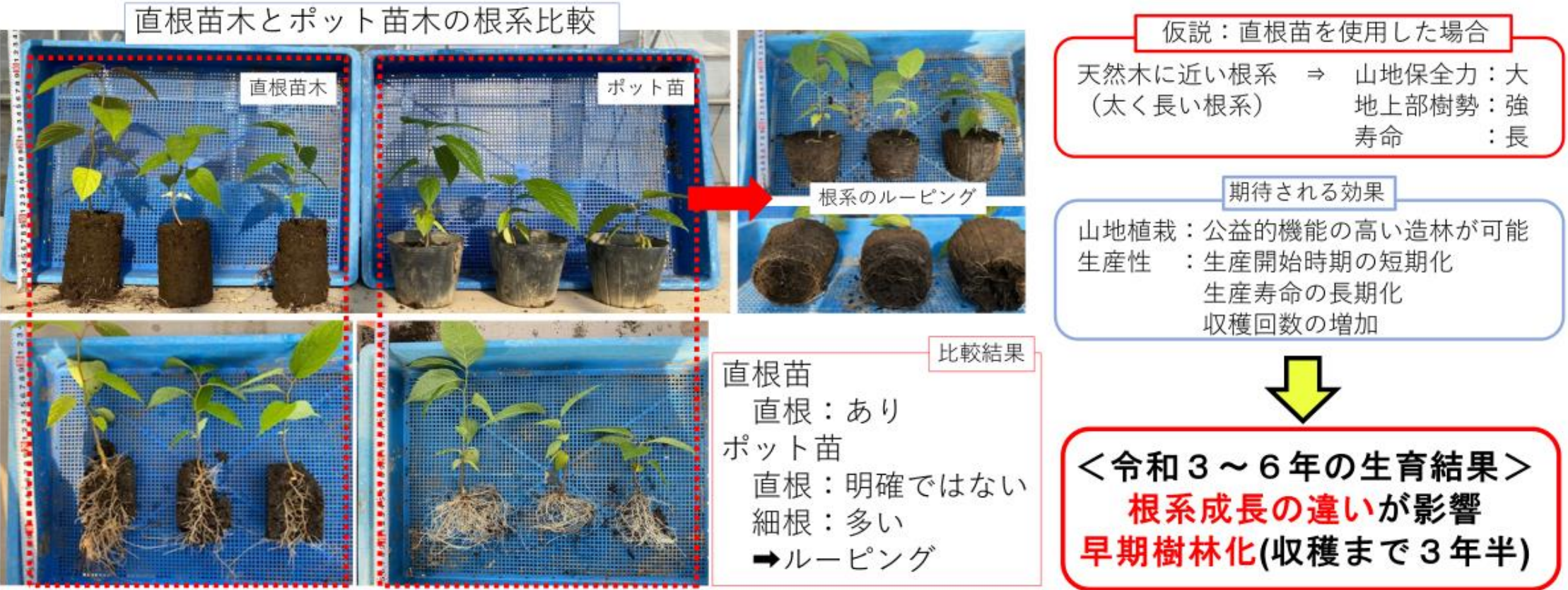
表 1 〈栽培歴〉 これまでの試験は春植えで以下の栽培歴で実施した (表 1)

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下
春 植 え	種子採取 ☆ △	種子保存		△ 播種 ○	育苗箱		直根苗		植栽	★		
秋 冬 植 え					種子保存					△ 播種 ○	育苗箱	直根苗

春植えは成長は良好だが、植林の適期が短い。
秋冬が実施可能であれば、植林の適期は長い。
秋冬植えを実施し、生育状況を比較検討することを目的とする。

5 取り組み内容一播種～育苗

播種から育苗の工程はこれまでの研究と同様に取り組んだ。試験圃場では慣行栽培で用いるポット苗ではなく、直根苗木を使用してきた。令和 3 年植林前の予備実験 (下の写真) から、直根苗を使用した場合の根系成長について仮説を立て、本実験に用いている。



6 結果一秋冬植えの実施と収穫体験



7 考察とまとめ・展望

＜考察とまとめ＞

11/4に植林した苗は、そのまま落葉し、翌春に成長を開始し、春植えと同様の生育をするのではないかと予測している。生育調査を 4 月から 2 カ月おきに実施し、令和 3 年に植林したデータと比較検討していく。

＜展望＞

秋冬植えが可能になれば、植林適期が大幅に広がり、トチュウ茶葉生産の大規模化と産地形成に直接的な効果を発揮する。

今回の植林では、本校や(有)壁山園の取り組みに興味を持って頂いた一般社団法人さがみ湖森・モノづくり研究所の皆様も活動した。今後も研究活動と合わせ、普及活動を継続していきたい。

